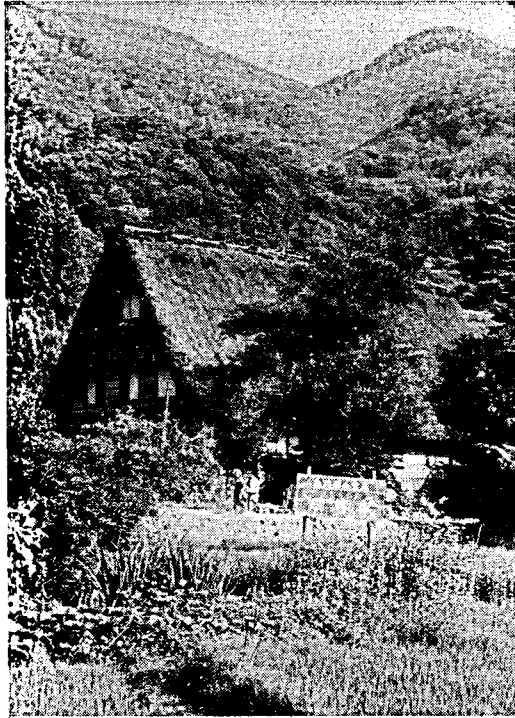


昭和 年 月 日					博物館開設準備室	
教育長	次長	室長	室補	長佐	室員	主任
<h1>岐阜の博物館</h1>					岐阜市岩戸花月町 2の1 濃飛甲冑研究所内 岐阜県博物館協会 発行責任者 吉田幸平 振替 名古屋 28716	
					編集兼発行	

No 22

1973.
11. 10



※写真上、階上に民族資料が展示されている合掌造りの明善寺庫裡。

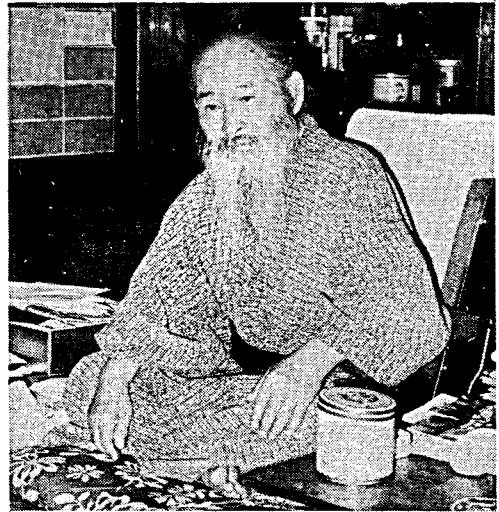
(右) 訪問客と話される大泉通地氏。

館・園紹介 No 20

合掌造りの

明善寺郷土館

〒501-56 大野郡白川村萩町 679
TEL 鳩ヶ谷 9番



いかにも山国白川郷の歴史風土を代表する、全国的にも珍しい茅葺合掌造りの寺院である。裏山のブナの原生林の深緑を背にして、総ケヤキ材づくりの本堂、それとよく調和した繊細で優美、それでいて素朴さのたどよう鐘楼門、さらに徳川末期建立の合掌造り庫裡、と、北国の自然環境に駆け込んだ寺院全体こそが、まさに生きた博物館資料である。

庫裡の階上には、山国の厳しい自然の中から生まれた人間の知恵 — 民族資料が展示され訪れる人々の目を奪っている。ここの楽しみは、ただ展示品を見学するだけでなく、本堂に入って仏壇を拝むことができることでもある。風格のあるみごとな彫刻、ケヤキの大柱、畳の上に座り込んで目を閉じるとき、都会では、すでに喪失されてしまった何かが、次々と目に浮んでくるにちがいない。萩町や鳩ヶ谷でも、トタン屋根・瓦屋根が増え、日本のふるさととしての風俗・習慣や人情、そして風景までもが、新しい時代の日本的なものへと変貌を余儀なくされている現在、長い顎髭にすら、この土地の歴史と風土の薫りを漂わせてみえる大泉通地氏と語り合えることは、訪れる人々の心に、いっそうの郷愁をそそるものである。現在病床に伏しておられるとのことであるが、ご快復をお祈りする。氏の口から語られる白川郷の思い出話は、明善寺郷土館の宝でもある。(文・写真 編集室)

岩村町郷土館 生い立ちの記

岩村町郷土館長
教育長 田中健太郎

わが岩村町はかつては西の大垣、東の岩村と云われ、東農における政治、経済、文化の中心的存在であった。

旧藩時代すでに官学の大家林述斎、佐藤一斎を産み天下にその名を知られ、廃藩後は薩長の藩閥体制の中にあつて、陸軍中将大島健一は岐阜県で最初の大臣となった。又明治の宮廷に仕えて従三位にのぼり、実践女学校を創立して女子教育に先鞭をつけた下田歌子、穂田の行者といわれ朝野に隠然たる勢力をもっていた易断家飯野吉三郎、或は植物学者の三好学、丸善の創設者林有的等各層にわたり超一級の人材を輩出している。

この町で郷土館を建てようという声がおこつたのは、昭和44年のことである。この頃町に伝わってきた大切な歴史民族資料が、急速に散逸する傾向が見えてきたので、町の有志がこれをくい止めようと計ったのが動機となったのである。この運動が町当局を動かし、愈々具体的になったのは昭和45年秋のことである。昭和46年度に国の補助が決定し、前田建設の手によって建築工事は進み、全年11月には建物の完成を見たのである。

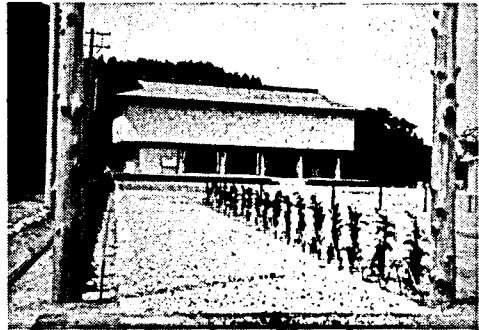
かくて昭和47年7月の開館を目標に、準備を進めたのであるが、その中で町民の最も関心を集めたものは、旧藩主松平家に伝わった資料であった。幸に松平家当主乗昌氏の理解ある計らいにより、由緒ある鎧2領外御朱印状、領地目録、叙位御沙汰書等貴重な書類208点を全部一括して町に譲り受けることができた。この外町内の寺院、神社に伝わる資料、旧家の土蔵深く眠っていた資料など快よく提供されて全年7月18日松平乗昌氏を迎えて開館式を行なう運びになったのである。

最初は展示物が少く内容を充実させる事が困

難ではなからうかということが、吾々当事者の一番心配するところであつたが、愈々開館の日取りが決まると、町内の反響は大きく、展示品は期せずして集まるといふ協力ぶりに、感激を新たにした次第である。

特に町内有志によって郷土館後援会が結成されて篤志寄附が寄せられ、その金額は237万円に達した。尚松平家からは林述斎の長子光氏が松平家墓前に献納された灯籠1基を寄附するとの申出でがあり、東京上野谷中の靈廟から郷土館の前庭に移す等の事もあり、有志による勤労奉仕により前庭の整理、清掃作業も行なわれ首尾よく開館式を迎えたのである。

抑々郷土愛の精神を養うには先ず知る事が先決である。当町の如く永い歴史をもつ町にあつては、町角にある石一つ、丘の上の塚一基にも重要な歴史が秘められている。開発か自然保護かは今日町民に課せられた重要な課題であるが、町民の誰もが認識をもたなければ、一部の識者のみでは到底乱開発から守り得ないと思ふ。



今町には有志によって文化財保護協会が結成され、町内の文化財の保護顕彰と共に、他の史蹟、文化財の視察研究等の企画がなされ、活発な活動をしているが、これも郷土館の建設が機縁となったものである。

近い将来には更に一棟を増築して、既に集めである民族資料を陳列すると共に、マンネリ化する事を警戒し、陳列品の更新を計ることと、時期を定めて特別展を催すことを考えている。

開催後の入場者数を見るに、満1ケ年を迎えた今年7月20日現在で、15458人で、この田舎町としては先ず先ずの成績であると思ふ。

トンボのはなし

岐阜市立梅林中学校

柴田佳章

トンボの研究を始めた動機

私は、子供のころ家の横を流れる小川でハグロトンボを追ったり、オニヤンマのはねを切って飛ばせたりした記憶がある。

10代の後半はコン虫との縁は切れていたが、教職に就き湿地の植物などを調査するうちに、静的な植物よりもその付近を勢いよく飛び交うトンボのほうが、おもしろくなって来た。

飛ぶためのみに造られたようなギンヤンマやオニヤンマの体のスマートさ、赤くて小さなハッチョウトンボが蜂のように草間に群れ、縄張りを作っている様子を見るにつけ、少年の日のコン虫への愛着が再びよみ返って来たのであった。その後、自動車の免許を取ってからは、県下の広い地域を調査するようになった。

特に、公害が叫ばれ始めてからは、コン虫保護の資料作りを早急にせねばならぬという使命感のようなものに駆り立てられて、その熱がいまだに続いている次第である。

岐阜県のトンボ類の分布

岐阜県は南部には海拔0m地帯があるが、北部には8,000m級の山岳地帯が連なり、標高差が著しく川や池沼などの水系が複雑に入り組んでいる。故に、暖地性種から寒地性種まで多様なトンボ類が生息している。

私自身の調査と文献資料から、これまでに生息を確認した県下のトンボ類は12科91種にも及ぶ。これは他県に比べても多いほうである。次に岐阜県のトンボ類の分布を概観してみよう。

① 県下の広い地域に分布する種類

これに含まれるのは、私達がよく見る普通の種類である。キイトンボ、クロイトンボは体長3cmほどのイトトンボ科の仲間、至る所の池沼に生息する。オニヤンマはわが国最大の

種類で体長は10cmほどあり、それよりやや小さいギンヤンマと共に、トンボ中の横綱である。これらは広く分布し、子供の遊び相手になってくれたものだ。古事記にある雄略天皇の腕にとまってアブを捕食したトンボ、兵庫県の小野高等学校の校章になっているトンボも、このような勢いのよい種類ではなからうか。

シオカラトンボ、オオシオカラトンボもよく見る親しみの深いもので、これらは春から夏にかけて活動する。ススキが穂を出すころになると、いよいよアカトンボの季節だ。

アカトンボの仲間は10種ほどいるが、それらの中でも、ミヤマアカネ、ナツアカネ、アキアカネなどが代表種である。これらの成虫は7月から出現するが、成熟して赤くなるのは9～10月である。青い空をバックにしてアカトンボが群れて飛ぶのは、実に情緒のある心の和む風景である。

② 産地が限定される種類

岐阜県だけに生息する種類は無いが、わが県に関係の深いものとして、ムカシトンボ、ムカシヤンマをあげねばならない。

これら両種は形態、生態共に原始的な特徴のある日本の特産種で、ムカシトンボは1889年(明治22年)に、ムカシヤンマは1886年(明治19年)に、英国人ブライヤーにより岐阜県ではじめて記録された。



※ムカシトンボの雄、はねを閉じてぶら下がってとまるという原始的な特徴がある。

ムカシトンボは、水温が20℃以下の山間の溪流にしか幼虫が生息しないため産地は限られていて、揖斐郡根尾村の水鳥谷や高尾谷、郡上郡美並村の木尾谷などに5月ごろ産する。

ムカシヤンマは以前はギフヤマトンボと呼ばれていた。この幼虫は溪流近くの蘇苔類の中に住むという特異な種類で、岐阜市の金華山、郡上郡和良村などに5～6月に産する。これら2種は生きている化石と言われる程の貴重な種類なので、保護には十分に留意したいものだ。

③暖地性の種類

暖地性のトンボ類は約30種が生息しているが、暖地性の強い東洋区系に属するものと、それより北の岐阜県を含む日本中部支那亜区系に属するものがあり、後者のほうが多い。

ムスジイトンボ、アオモンイトンボは東洋区系の種類で、前者は笠松町無動寺の河跡湖のみに、後者は岐阜市以南の池沼に散在的に分布している。

サナエトンボ科の仲間のフタスジサナエ、オグマサナエ、タバサナエは日本の特産種で、岐阜県東部付近に生息の東北限があるとされている。

ハッチョウトンボは東洋区系の暖地性種であり、東濃地方に産地が集中していて、加茂郡、可児郡、恵那郡の山間の湧水のある湿地に産する。それは、東濃地方一帯には粘土質の水を通しにくい地層が広く分布していて、湿地ができやすいからであろう。体長は1.5～2cmほどで、飛ぶ距離も2～3mと短かく、トンボ科のうち最小の貴重な種類である。

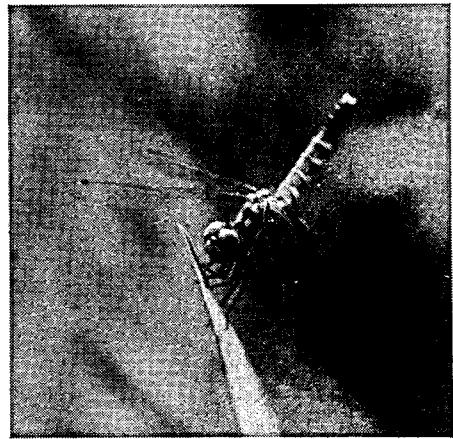
岐阜市太郎丸の生息地は、宅地造成のため破壊されてしまったが、実に残念なことだ。

④寒地性の種類

寒地性のトンボは10余種が分布していて、そのうち2～3種が満州亜区系に属するが、他はすべて寒地性の強いヨーロッパシベリア亜区系に属するものである。

ルリイトンボ、ルリボシヤンマ、エゾトンボ、カラカネトンボなどが後者の代表種である。

ルリイトンボ、カラカネトンボは郡上郡白



※ハッチョウトンボの雌、尾を上げてとまる。

鳥町の村間ケ池、大野郡高根村の杣ケ池、ルリボシヤンマは恵那郡川上村奥三界山の鏡池、エゾトンボは大野郡朝日村の見座沼、カオジロトンボは神岡町の北ノ俣岳というように、どの種も山岳地の池沼に生息している稀種である。

コサナエは、東北日本に分布するが、岐阜県付近に生息の南西限があるということである。

トンボの博物館展示のしかた

小学校の理科に、トンボの幼虫であるヤゴなどの水生コン虫の観察教材がある。しかし、生きた動物性のえさが必要なため飼育は困難である。博物館では、ぜひ生態展示を成功させ、学校教育を補いたいものだ。飼育用水槽は奥行きが10～15cmの厚さの薄いほうが、ヤゴがよく見えよう。イトミミズ、ミジンコなどを年間を通して繁殖させておくこと、エアーポンプで空気を送ったり、羽化のための木片を入れることなどにも留意せねばならない。

成虫の展示は、科別に標本箱に入れるのみでなく、水系を表わした大型の岐阜県地図に、実際の分布に従って虫ピンで標本を止めるか、種類により凡例を決めて、トンボ形に切り抜いたプラスチック板を用いて分布を示すなど、いろいろな方法が考えられる。もし可能ならば、野外に湿地を造り、イトトンボ類やハッチョウトンボを移して、できる限り自然に近い状態で見せることが望まれる。

学芸員資格認定試験の思い出

稲羽中学校教諭
学芸員 小野木三郎

自然保護の原点をみつめて

大学の卒論で「御岳山の植物群落」に取り組み、みるみる皆伐されていく原生林に胸を痛めながら、いつしか「自然とヒトとのかかわり」に強い関心を持つようになったわたしは、自然保護運動を呼び、自然保全の法的規制に多大の期待をかけていた。しかし、過去の自然公園法の例をみるまでもなく、法律がどんなに立派であっても、自然が守られるなどと安易には考えられなかった。結局は、自然を忘れ、あまりにも西欧的・西歐人になりすぎてしまったわたしたちの心、一物質的、経済的欲望のみに目を奪われた人間の心の改革こそ自然保護の原点であると思うようになった。つまり、わたしたちひとりひとりが、自然界のしくみをこそ正しく理解し、より多様な自然の生態系の中にしか、人間は存在し得ないことに気づくことだと思った。自然保護教育こそが、遠まわりであっても、緊急の課題であるし、そのためには、明日の社会を創造する新たな社会の公共機関、「自然史博物館」をこそ建設すべきだと考えた。

博物館学の学習をめざして

わたしは、自然史博物館の設立運動を進めるためには、まず自分自身こそが「博物館が何であるのか」「新しい博物館の姿」を学ばねばならない。「博物館学」の文献すら満足にない日本である。県立図書館で文献あさりをして、棚橋源太郎先生の古い著書「博物館学綱要」「博物館教育」を借り受け、読みながらノートをとった。約二ヶ月はかかったろうか。博物館法を調べて「学芸員」なる資格のあることを知り、自分の勉強の励ましとして、その国家試験を受けることにした。昭和42年の10月頃であった。先輩格の学芸員宮崎惇先生のご指導も受け、その頃の唯一の博物館学の参考文献、日博協の機関誌「博物館研究」を、そう過去10年分ぐらい、段

々箱に二杯ぐらいだったかをドサッと借りて来て、これを全部読破、必要と思える論文などは、どんどん自分なりにまとめてノートしたものであった。

いよいよ受験

資格認定の方法をみると、教員の免許のあるわたしは、「五年以上教職員の職にあった者」にあてはまるちょうど五年経験の若輩教師、そのうえ、大学は生物学専攻であるため、専門過程で地学、化学等の科目修得があり、教育原理も修得済みで、結局は、「博物館学」「社会教育概論」「視聴覚教育」の三科目を受験すればよかった。植物群落の調査を通して、写真の技術には自信はあったし、カラスライドの自作もやっていた。5年という浅い教員生活とはいえ、視聴覚教育の実践はあったし、過去の出題例をみると、「視聴覚資料の種類を挙げよ」「各種資料（レコード、テープ、スライドetc）の保管上の注意を述べよ」「16mm映写機の操作上の留意点を挙げよ」といったようなもので、心配はしなかった。社会教育概論については、本屋の店頭にも数々の書物が出ていたので、学生に逆戻りした気持ちで受験勉強した。一番心配だったし困ったのは「博物館学」で、これは筆記と口述の試験がある。過去10年間ぐらいの出題問題の全解答は自分で作ったし、前述のように、一番時間をかけて勉強した。東京神田の古本屋で「博物館組織—イコム編邦訳」を見つけたりして、国家試験日を目やすに、自分なりの博物館学論づくりに熱中した。六ヶ月はかけた。当日の出題は、社会教育機関としての博物館の役割、博物館の自然保護機能、学芸員の研究活動等を論述する問題であったが、時間の許す限り自分の博物館学論を書きまくった。面接でも、参考文献等を問われたが、過去の勉強の足跡をしゃべりまくった。60人程の受験者がいたが、発表では10人ほどの合格者で、その一人に運良くすべり込んでいた。不合格科目がある場合は、次年度にその科目のみ受験すればいいので、多数の方々が気楽にどんどん受験されることを期待します。

学芸員の試験に多数参加を!

昭和48年度学芸員資格認定の実施告示(文部省)の写しが、各市町村教育委員会教育長宛に出されております。現在全国的に学芸員の数は少なく、特に自然科学系は不足しています。「博物館」は陳列場でも保管場所でも、また単なる専門の研究所だけでもありません。近代文明社会に欠くことのできない、全く新しい社会の公器であり文化の殿堂たらねばなりません。そのためには、まず建物よりも、まず物よりも、何よりも優先して充実されるべきは「人間・博物館人の数・資質」の向上です。今日を救い明日を創造する博物館活動のいっそうの発展のためには、県内にもより多くの「学芸員」の誕生こそが望まれます。ぜひ多数の方々が受験されますように。

※試験認定の方法

期日 昭和49年2月13日(水)～14日(木)

場所 国立教育会館(東京霞ヶ関3の2の3)

科目 ● 必須 博物館学(筆記・口頭)教育原理、社会教育概論、視聴覚教育(筆記)
● 選択 文化史、美術史、考古学、民俗学、自然科学史、物理、化学、生物学、地学の中から2科目(必須・選択とも大学で単位取得者は科目免除がある)

手続 県教委社会教育課を通して、12月15日までに文部省必着。受験を希望される方は、大至急、〒500 岐阜市葭田、岐阜県教育委員会社会教育課へ、申請手続き要項を申請され、早めに手続きを完了して下さい。

(注) くわしくは、本誌16. P10 に大要が出ていますし、「博物館法」をみてください。また博物館学の参考図書・文献等の貸出し、受験相談の詳細は、電話 0582-45-3947 吉田幸平、05838-8-1920 宮崎 惇、0583-83-0748 小野木三郎まで気軽にどうぞ(夜間好都合)

三 県内 ニュース

板家の里・飛驒風物館オープン

高山市八賀民俗美術館の八賀啓輔氏が、神岡町下本地方に残る民家「板家」四棟を購入され、高山市松之木町の国道沿いに移築した。江戸時代の祭りなどの風俗スケッチ図、飛驒地方の古い陶器類、古い漆器などの生活用具など約千点を展示している。板家は、飛驒山村の古い民家で、壁土を使わないで板ばりて仕上げられたもの、家屋だけでも貴重な文化財である。入場料は、大人80円・小人40円。

※事務局より※

★寄贈文献 びそん通信16 1～1626. びそん63号(ミヤズヒメ伝承成立に関する一試論)以上美術文化史研究会より寄贈受けました。ご利用の方は事務局まで申し出て下さい。

★往復葉書の返信を!

最新の資料にもとづいて、新しい一覧表を作成すべく、葉書(往復)でアンケートご依頼しましたが、ご返信のない館園がまだあります。正確を期しておりますので、大至急ご返信下さい。

編集後記

◎日本の博物館界は大きく動いております。その中で、日本列島の中央に位置し、地道に博物館学セミナーを12回まで続けてきた本会の歩みは、博物館学会の発足とともに、新しい博物館界を下から支える原動力となることでしょう。生涯教育の必要性が叫ばれても、市民の側自身の教育要求が尊ばれぬ限り、本物とは云えぬであろう。

◎9月第10回のセミナーより、柴田先生のトンボの話をいただきました。次回からも一編づつとり入れていく予定です。つねに学習し続け幅広い見方のできる博物館人になろう。(Sab.)